

令和7年度 大阪市立茨田北中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

校内秩序を正しく維持することができており、ほとんどの生徒がまじめに学校生活を送っている。  
平均正答率において、国語・数学とも全国平均を下回っている。  
平均無回答率において、全国と比較して、国語は上回っているが、数学は下回っている。問題に取り組む姿勢に課題がみられる。  
一部の生徒において、学習意欲に課題があり、基礎学力の定着が不十分である。そのため、学習の定着度に関して、二極化の傾向が見られる。  
家庭での学習については、宿題においてしっかりできている生徒が増えてきているが、未提出の生徒も若干おり、学校でのフォローと家庭へのさらなる啓発が必要である。  
〈国語〉全国と比較して、「言葉の特徴」の領域において高い値を示している。  
〈数学〉全国と比較して、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の領域において低い値を示している。  
〈理科〉全国と比較して、平均IRTスコアは16pt下回っている。  
生徒質問紙において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対する肯定的な回答の割合が、全国よりも上回っている。ただ、「将来の夢や希望を持っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、全国より下回っている。自尊感情が全国と比較して、若干低い傾向にある。

【今後に向けて】

学習規律を確保しつつ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。特に、各教科の知識や技能、見方、考え方を今まで以上に働かせながら学習することで、それらを使って自分の考えを整理したり、組み立てたりして、自分の考えを表現できる力をつけていく。  
TT、習熟度別授業、少人数授業をより積極的に取り組み、補充学習などの個に応じたきめ細やかな指導に心がけ、基礎・基本的な学習内容の定着を徹底する。  
ICT機器を有効に活用した指導方法の充実に努める。  
生徒会、生徒専門委員会活動を通して、生徒自ら進んで、学校生活の改善に取り組める環境の充実に努める。  
授業、学校行事など、学校教育活動全体を通して、普段からお互いを認め合い協力しあえる集団作りに努める。  
「道徳」「特別活動」を充実させ、「自己肯定感」「自己有用感」を高めるとともに、集団や社会の一員として果たす役割を考えさせる。  
教員の授業力の向上を目的とした研究授業の充実を図る。